周年放牧における黒毛和種の繁殖成績に及ぼす要因について

紙　屋　　茂

緒　　言

入来牧場では周年放牧による，子牛の生産を行っている。繁殖成績は牧場運営に大きな影響を与えることから，繁殖成績をさらに向上させ，子牛生産効率を高めることが必要である。そこで本調査は入来牧場での繁殖成績に及ぼす要因について検討し，技術向上のための資料を得ようとした。

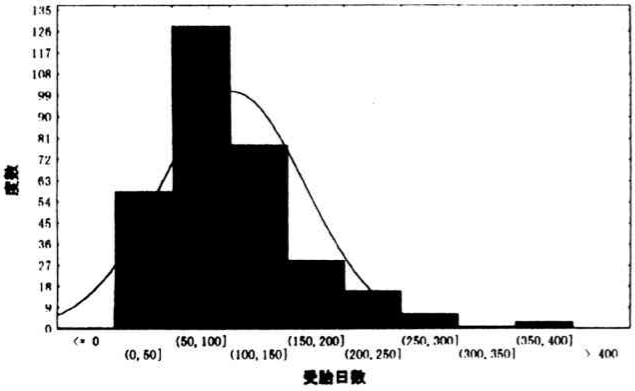
材料と方法

1994年11月から1997年３月までの分娩牛319頭について，分娩後受胎平均日数の年度，季節，分娩月および産歴間の違いを検討した。

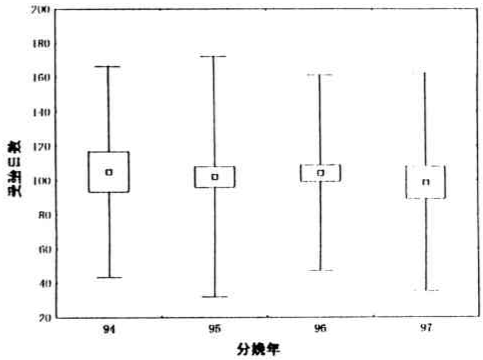
結果と考察

分娩後の平均受胎日数は102日で，105日以上の個体が平均受胎平均日数を長くする原因であった（第１図）。年度別受胎日数は1994年が長く，1997年が短い傾向を示した（第２図）。季節別受胎日数は冬季分娩牛が短く，春季および夏季分娩牛が長くなり繁殖成績が低下した（第３図）。分娩月別受胎日数は１月，２月，４月，９月は短く，８月が長くなった（第４図）。産歴別では，８産目が長くなった（第５図）。

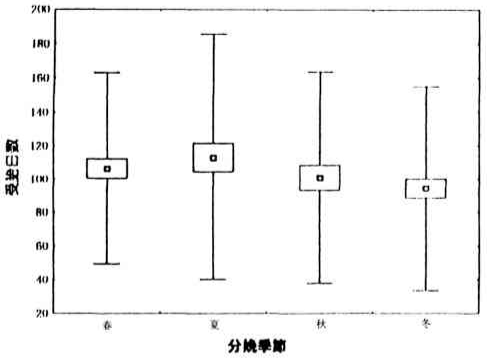
以上のことから，受胎日数が150日以上の繁殖成績の悪い個体が平均受胎日数に影響を与えており，分娩季節では夏季分娩牛の繁殖成績が低下する傾向があり，産歴では８産目から繁殖成績が低下する傾向が認められた。したがって，これらの要因に関する繁殖管理技術の開発が不可欠であると考えられる。



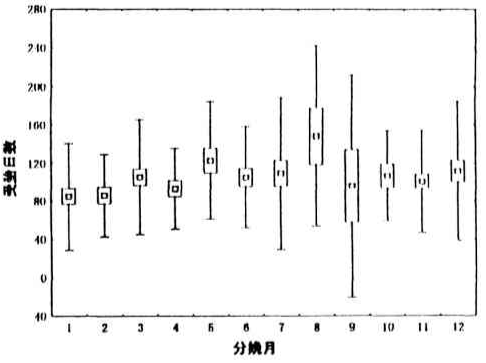
第１図　分娩後の受胎日の分布



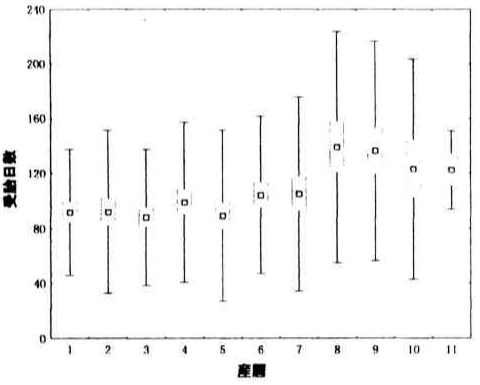
第２図　分娩後の受胎日数の年次による違い



第３図　分娩後の受胎日数の分娩季節による違い



第４図　分娩後の受胎日数の分娩月による違い



第５図　分娩後の受胎日数の産歴による違い